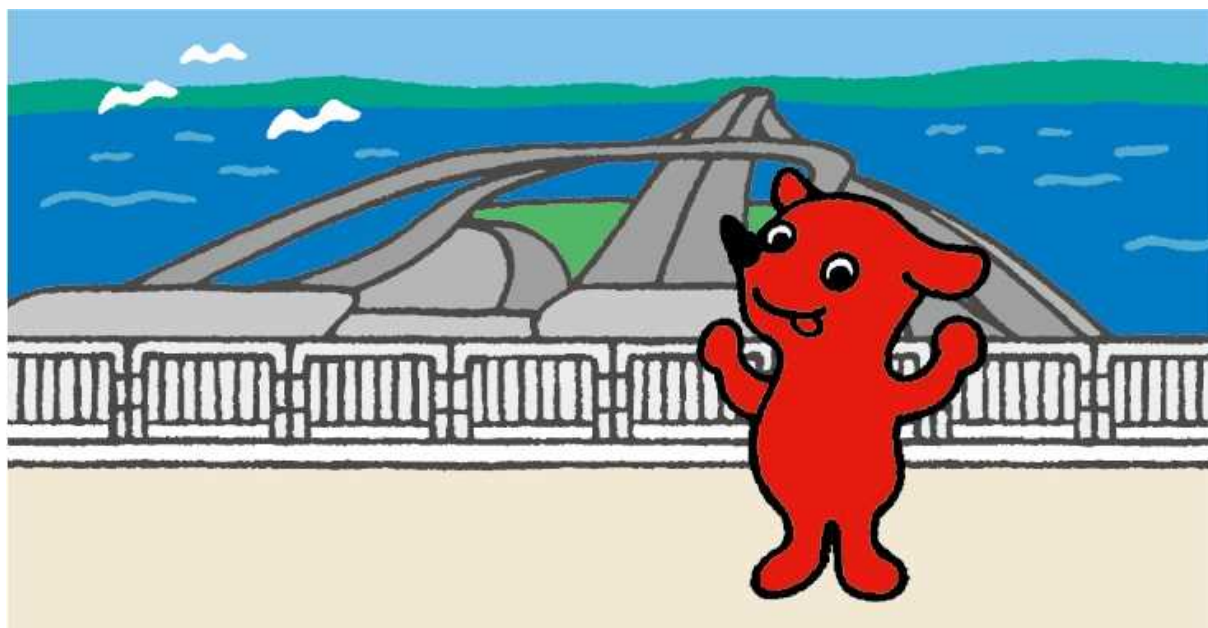


「次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン」
(千葉県総合計画)

平成 30 年度実施状況【抜粋版】



千葉県マスコットキャラクター チーバくん

(東京湾アクアライン)

令和元年 12 月
千 葉 県

■「次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン」平成30年度実施状況【抜粋版】

(1) 基本目標Ⅰ 安全で豊かな暮らしの実現		
I-1-①	自助・共助・公助が一体となった地域防災力の向上	・・・ 1
I-1-②	災害に強いまちづくりの推進	・・・ 1
I-1-③	危機管理対策の推進	・・・ 1
I-2-①	犯罪の起こりにくい、安全で安心して暮らせる社会の構築	・・・ 2
I-2-②	交通安全県ちばの確立	・・・ 2
I-2-③	消費生活の安定と向上	・・・ 2
I-3-①	増大する医療ニーズに対応した安心で質の高い医療サービスの提供	・・・ 3
I-3-②	生涯を通じた健康づくりの推進	・・・ 3
I-3-③	高齢者が個性豊かに生き生きと、安心して暮らし続けられる地域社会の実現	・・・ 3
I-3-④	障害のある人が地域でその人らしく暮らせる共生社会の構築	・・・ 3
I-3-⑤	互いに支え合い、安心して心豊かに暮らせる地域社会づくりの推進	・・・ 4
I-4-①	ちば文化の創造と千葉県民のアイデンティティの醸成	・・・ 4
I-4-②	「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」の推進	・・・ 4
I-5-①	地球温暖化対策の推進	・・・ 4
I-5-②	循環型社会の構築	・・・ 5
I-5-③	豊かな自然環境と良好な大気・水環境の保全	・・・ 5
I-5-④	野生生物の保護と適正管理	・・・ 5
(2) 基本目標Ⅱ 千葉の未来を担う子どもの育成		
Ⅱ-1-①	安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり	・・・ 6
Ⅱ-1-②	地域による子育て支援の充実	・・・ 6
Ⅱ-1-③	子どもの健やかな成長と自立	・・・ 6
Ⅱ-2-①	志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材の育成	・・・ 7
Ⅱ-2-②	ちばのポテンシャルを生かした教育立県の土台づくり	・・・ 7
Ⅱ-2-③	教育の原点としての家庭の力の向上と人づくりのための連携	・・・ 7
Ⅱ-2-④	多様化する青少年問題への取組	・・・ 7
(3) 基本目標Ⅲ 経済の活性化と交流基盤の整備		
Ⅲ-1-①	千葉の「宝」を生かした観光立県の推進と移住・定住の促進	・・・ 8
Ⅲ-1-②	国際都市として発展するCHIBAづくり	・・・ 8
Ⅲ-2-①	県経済の活力を生み出す産業の育成と企業立地の促進	・・・ 8
Ⅲ-2-②	中小企業・小規模事業者の経営基盤強化	・・・ 9
Ⅲ-2-③	地域の創意工夫による経済活性化の取組の促進	・・・ 9
Ⅲ-3-①	女性の活躍推進	・・・ 9
Ⅲ-3-②	雇用対策の推進と産業人材の育成	・・・ 10
Ⅲ-4-①	産地の戦略的な産地強化と高収益型農林水産業への転換	・・・ 10
Ⅲ-4-②	緑豊かで活力ある農山漁村づくりの推進	・・・ 10
Ⅲ-5-①	交流基盤の強化	・・・ 11
Ⅲ-5-②	成田空港の機能拡充と空港を活用した県経済の活性化	・・・ 11
Ⅲ-5-③	社会資本の充実と適正な維持管理	・・・ 11
Ⅲ-5-④	人と環境にやさしい住まい・まちづくりの推進	・・・ 11

本書は、平成30年度における実施状況の抜粋版です。

総合計画の内容や実施状況の詳細につきましては、県ホームページをご覧ください。

・千葉県総合計画「次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisaku/sougou/sinkeikaku.html>

・「次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン」の政策評価

<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisaku/hyouka/shinkoukanri/index5.html>

また、県庁本庁舎2階県政情報コーナーや各地域振興事務所、県図書館等において閲覧することができます

(1) 基本目標Ⅰ 安全で豊かなくらしの実現

I-1-①：自助・共助・公助が一体となった地域防災力の向上

千葉県地域防災力向上総合支援補助金により、市町村等が取り組む、自主防災組織等の育成・活性化や避難環境の整備等の事業について、計45市町村、1一部事業組合、111事業に対して支援を行いました。

また、S-net[※]観測情報に基づき、津波浸水域や到達時間等を予測する「千葉県津波浸水予測システム」を整備しました。

※S-net(日本海溝海底地震津波観測網)：

国立研究開発法人防災科学技術研究所が整備した、房総沖から北海道沖までの海域で地震や津波を直接観測する観測網。



九都県市合同防災訓練

I-1-②：災害に強いまちづくりの推進

災害時の道路ネットワーク確保のため、橋梁の耐震補強を実施しているほか、津波対策として河川堤防のかさ上げを2.1km、海岸堤防のかさ上げを2.4km実施しました。

また、地震や豪雨などによる二次被害を防止するため、宅地や建築物の危険度を判定する者を養成する講習会を開催し、被災宅地危険度判定士34人及び被災建築物応急危険度判定士153人を養成しました。



津波堤防
本須賀海岸(山武市)

I-1-③：危機管理対策の推進

新型インフルエンザ等の感染症の発生に備えて、各健康福祉センター等において、管内の関係者等の会議、訓練等を行い、体制の強化を図りました。

また、大気・公共用水域・海水浴場・水道水等の放射性物質モニタリングを定期的実施して結果を公表しました。県産の農林水産物についても、放射性物質のモニタリング検査を実施し、基準値を超えた物が流通しないようにするとともに、結果を速やかにホームページで公表することで風評被害の軽減に努めました。



新型インフルエンザ等
対策病院実動訓練



I-2-①：犯罪の起こりにくい、安全で安心して暮らせる社会の構築

地域の防犯活動の核となる防犯ボックスについては、四街道市、東金市、栄町の3市町が設置する防犯ボックスに対して新たに補助を行い、市町村が設置する防犯ボックスは9か所となりました。

また、犯罪抑止効果が高い防犯カメラの設置に対する市町村への補助については、平成29年度までの1,040台に加え、平成30年度には更に373台の補助を行い、犯罪の起こりにくい環境づくりを推進しました。



東金市防犯ボックス

I-2-②：交通安全県ちばの確立

安全で快適な交通環境を整備するため、道路管理者や県警・関係団体等が協力して実施する交通事故多発箇所の共同現地診断を38回実施し、診断結果について、整備・改善等の対策の促進により、交通事故の抑止に努めました。

また、交番員、駐在所員等が、高齢者宅に直接赴き、延べ208,263人（平成30年中）の高齢者に対して、交通事故情報の提供と交通安全指導を実施しました。



共同現地診断の様子

I-2-③：消費生活の安定と向上

消費者が正しい知識を身に付け、消費者被害を未然に防止することができるよう、自立支援講座（57回、4,389人）等の各種講座を開催するなど、様々な世代に対して消費者教育を行うとともに、消費生活相談窓口の広報・啓発を進めました。

また、食品営業施設の監視指導や食品検査の実施、食品等事業者向けのHACCP^{*}セミナー・相談会（11回、205事業者）等を開催するとともに、農薬安全使用研修会の開催により農薬の適正使用を推進しました。

※原材料の入荷から製造、出荷までのいくつもの工程の中で、特に重要な工程を管理し、安全で衛生的な食品を製造するための衛生管理手法の一つ。



県消費者センターで電話相談を受ける相談員



I-3-①：増大する医療ニーズに対応した安心で質の高い医療サービスの提供

平成30年4月に千葉県保健医療計画の改定を行い、本県が目指すべき医療提供体制を示す「地域医療構想」の実現に向けた具体的な実行計画となるよう、必要な取組を盛り込みました。

また、千葉県 AED 等普及促進計画に基づき、普及啓発ポスター及びリーフレットの作成・配布や各種救命講習の実施などにより、AED の使用及び心肺蘇生法の実施の促進を推進しました。



救急法講習（AED 及び心肺蘇生法）

I-3-②：生涯を通じた健康づくりの推進

生活習慣病の予防を目的に、健康ちば推進県民大会を開催し、健康づくりに関する県民の意識を高め、運動・栄養等に関する知識の普及を図りました。（参加者 276 名）

また、がん予防や早期発見、検診の重要性を啓発するため、9月のがん征圧月間、10月の乳がん月間を中心に、がん予防展・がん講演会、ピンクリボンキャンペーン等を開催し、がん検診受診率の向上を図りました。



健康ちば推進県民大会の様子

I-3-③：高齢者が個性豊かに生き生きと、安心して暮らし続けられる地域社会の実現

高齢者の孤立化防止のため、千葉県が独自に実施している「ちば SSK プロジェクト(しない、させない、孤立化!）」について、高齢者の見守りや雇用等により取組に協力をしていただいている店舗の登録件数が、6店舗（平成29年度）から622店舗（平成30年度）に増加しました。

また、今後も多大なニーズが見込まれることから、平成30年度も引き続き、特別養護老人ホーム1床あたりの補助単価を、全国トップクラスの450万円とし、積極的に整備を図りました。



「ちばSSKプロジェクト等に関する協定」締結式の様子

I-3-④：障害のある人が地域でその人らしく暮らせる共生社会の構築

ヘルプカードを普及・啓発するための取組として、ヘルプカードやチラシ、ポスターを作成し、県内各所へ配布しました。

また、重症心身障害のある方を受け入れるために看護師を配置等している福祉型短期入所事業所に対して運営費の助成を行い、障害のある人の支援体制の充実に取り組みました。



ヘルプカード



I-3-⑤：互いに支え合い、安心して心豊かに暮らせる地域社会づくりの推進

県民のボランティア活動への参加促進を図るため、民間団体等からの企画提案によりボランティア活動への参加のきっかけづくりを行う「ボランティア参加促進事業」において、採択した2事業で実施した竹林整備体験等のイベントに延べ312名の参加がありました。

また、生涯学習情報の提供を充実させるため、県内の生涯学習情報を提供する「ちばりすネット」(URL:<https://www.skplaza.pref.chiba.lg.jp/clis-net/>)に、5,510件の情報を登録しました。



ボランティア参加促進事業
竹林整備体験の様子

I-4-①：ちば文化の創造と千葉県民のアイデンティティーの醸成

平成28年度後半から、東京オリンピック・パラリンピック大会の機運醸成のため、「公認文化オリンピックカード」*の認証が開始され、平成30年度は17,675人のアーティストが新たに参加しました。

千葉県でもシンボリックな事業として「千葉・県民音楽祭(県民参加型コンサート)」と「次世代に残したいと思う『ちば文化資産』選定事業」を実施しました。

*オリンピック憲章に基づいて行われる、東京オリンピック・パラリンピック大会の公式文化プログラム。



「ちば文化資産」ロゴマーク

I-4-②：「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」の推進

10月の「スポーツ立県ちば推進月間」を中心に、「スポーツで元気いっぱい！親子体験イベント」や総合型地域スポーツクラブ交流大会「スポネットちば」等を開催し、生涯スポーツの推進を図りました。

また、東京オリンピック・パラリンピックを目指す選手を強化指定し、競技力向上に向けた活動の支援を行うとともに、東京パラリンピックへの出場が期待される有望な選手の掘り起こしを進めました。



「スポーツで元気いっぱい！
親子体験イベント」の様子

I-5-①：地球温暖化対策の推進

家庭向けの省エネキャンペーンや省エネルギー等に積極的に取り組む事業所を登録する制度の実施のほか、民間事業者・市町村への再生可能エネルギー等の導入支援などにより、二酸化炭素排出量の削減に努めました。

また、市町村や企業、市民活動団体が開催する環境学習関連講座への講師派遣(延べ50件)等を通じて、環境学習の機会の提供を行いました。



CO2 CO2 スマート宣言事業所
ロゴマーク

I-5-②：循環型社会の構築

レジ袋や食品の食べ残しの削減等に向けたPRを行うとともに、各種イベント時にリーフレットやエコバッグ等を配布するなど、循環型社会についての理解を広めるための啓発を行いました。

また、民間警備会社も活用し、24時間・365日体制で監視パトロールを行うとともに、県民等からの通報を受け付ける産廃110番を設置し、産業廃棄物の不法投棄等の早期発見、早期対応に努めました。また、積極的な取締りを実施した結果、産業廃棄物の不法投棄事犯等について、60事件・71人を検挙しました。



3Rの推進のため取組を進めている環境にやさしいライフスタイル「ちばエコスタイル」のイメージ

I-5-③：豊かな自然環境と良好な大気・水環境の保全

大気常時監視測定局において、オキシダント（光化学スモッグの原因物質）やPM2.5等の大気環境の常時監視を行い、光化学スモッグ注意報等発令時には、市町村等を通じた広報、県ホームページでの情報提供、メール配信により、注意を呼びかけました。また、大気汚染防止法等に基づく立入検査により、事業者に対し排出基準の遵守及び施設の適正管理を指導しました。

また、良好な水環境を保全するため、河川・湖沼・海域などの監視を継続して行うとともに、水質汚濁防止法における特定施設の設置事業場に対する立入検査を行うなど、工場・事業場排水の汚濁物質の削減対策に努めました。また、生活排水対策として、市町村が行う合併処理浄化槽設置促進事業に対し助成を行いました。



PM2.5の常時監視測定局
(勝浦小羽戸測定局)

I-5-④：野生動物の保護と適正管理

希少種保護のため、ミヤコタナゴ保護増殖事業、シャープゲンゴロウモドキとヒメコマツの保護回復事業の一環として、生息・生育環境の整備・保全等を進めました。

また、野生鳥獣による農作物等の被害対策のため、市町村が行う捕獲事業に対する支援、県による指定管理鳥獣（イノシシ・ニホンジカ）の捕獲や有害鳥獣の有効な防除のための調査・研究などに関係機関・団体等と連携し取り組みました。



ミヤコタナゴ



(2) 基本目標Ⅱ 千葉の未来を担う子どもの育成

Ⅱ-1-①：安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり

子育て世代包括支援センターの設置を促進するために、セミナーの開催やアドバイザーの派遣を行い、設置主体である市町村の課題解消に努めるとともに、専門職への研修を実施しました。

また、婚活、妊活、プレママ・パパ、育児の4つのライフステージにある県民に対し、県や市町村からの支援情報の提供や、健康・育児に関する相談受付などを行うスマートフォン用アプリ「ちば My Style Diary」を配信し、ダウンロード者数は、平成31年3月31日時点で17,938件となりました。



ちば My Style Diary

Ⅱ-1-②：地域による子育て支援の充実

保育所等における待機児童の早期解消に向け、国の交付金や、県独自の賃貸物件を活用した保育所等の整備に係る補助金等を活用し、民間保育所等133施設の整備に対して助成しました。

また、保育士の確保に向け、県独自の補助金等により、保育士の処遇改善を図ったほか、保育士資格取得や潜在保育士の再就職のための資金の貸付や養成施設の就職促進の取組に対する助成などを実施しました。



ちば保育士・保育所支援センター

Ⅱ-1-③子どもの健やかな成長と自立

平成28年度の子童福祉法の改正により、市町村が整備に努めなければならないとされた、子どもや妊産婦を対象に専門的な相談等を行う「市町村子ども家庭総合支援拠点」について、市町村に設置を促した結果、新たに5市（館山市、木更津市、鴨川市、浦安市、山武市）に設置され、計9箇所となりました。

また、家庭的養護の推進に向け、里親登録数の増加に向けた広報・イベントや研修等を実施し、里親登録数・委託数・里親委託率ともに増加しました。



里親制度説明会



Ⅱ-2-①：志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材の育成

市町村立の小・中学校 190 校に学習サポーター（退職された先生や非常勤講師等の教職経験者等）を派遣し、放課後の補習等の学習支援、少人数指導や習熟度別指導等の授業支援、家庭学習の充実に向けた支援を行うなど、基礎学力の底上げや学習意欲向上を図りました。

また、生徒の外国語能力の向上と国際感覚の涵養を図るため、「語学指導等を行う外国青年招致事業」を活用し、新たに外国語指導助手(ALT)6人を海外等から招致しました。



学習サポーターによる
学習支援の様子

Ⅱ-2-②：ちばのポテンシャルを生かした教育立県の土台づくり

個に応じたきめ細やかな指導等のため、小中学校に 163 名の非常勤講師を配置し、教科指導や生徒指導の充実を図りました。

また、臨床心理士等の専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを小学校においては 10 校増の 150 校へ隔週配置するとともに、高等学校においては配置校と未配置校をグループ化して教育相談体制の充実を図りました。



相談室の様子

Ⅱ-2-③：教育の原点としての家庭の力の向上と人づくりのための連携

学校・家庭・地域が連携した家庭教育を推進するため、家庭教育支援チームを設置する 4 市町に対して財政支援を行い、子育てする親の孤立化防止、個々の家庭への相談体制の充実を図りました。

また、経済的理由で修学が困難な生徒を支援するため、保護者が県内に在住する高校生等 1,296 人に「千葉県奨学資金」の貸付けを行いました。



鋸南町家庭教育支援チーム

Ⅱ-2-④：多様化する青少年問題への取組

「千葉県子ども・若者総合相談センター（ライトハウスちば）」において、社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者からに関する各種相談（1,079 件）に対応しました。

また、平成 30 年度から「若者を対象とした支援プログラム」を開始し、パソコンによる絵本作成や体操等を行い、生活リズムの見直しを図ることで、利用した若者 17 人のうち 6 人が復学や就職へつながりました。



インターネット適正利用啓発講演



(3) 基本目標Ⅲ 経済の活性化と交流基盤の整備

Ⅲ-1-①：千葉の「宝」を生かした観光立県の推進と移住・定住の促進

観光施設や宿泊施設等の経営者・従業員を対象に海外観光ゲストへのおもてなし力向上研修を開催し、ICT機器の紹介、障がい者・高齢者を含めたユニバーサル対応、実践的な接客語学について研修を行いました。

また、千葉県として台湾・タイ王国・マレーシアで開催された旅行博へ出展し、現地商談会も開催したほか、ベトナムにおいては知事がトップセールスを行うなど、さまざまな手法で千葉県への誘客のためのプロモーションや県内観光地のPRに努めました。



ベトナムでの観光誘致セミナー

Ⅲ-1-②：国際都市として発展するCHIBAづくり

姉妹州であるアメリカ・ウィスコンシン州から友好使節団を受け入れして交流を図るとともに、友好都市であるドイツ・デュッセルドルフ市や台湾・桃園市と交流を深めました。

また、公益財団法人ちば国際コンベンションビューローを中心として、市町村や関係機関との連携により75件の国際会議の誘致に成功しました。



幕張メッセで開催された国際会議

Ⅲ-2-①：県経済の活力を生み出す産業の育成と企業立地の促進

千葉臨海コンビナートの競争力強化のための新たな投資を促す環境づくりに向け、同地の生産性向上や強じん化、防災力の強化、保安力の高度化等に必要な支援の拡充や制度構築に関し、国に働きかけを行いました。この結果、支援制度の拡充に加え、プラント保安の高度化に資する「ドローンの安全な運用方法」及び「電子機器等の活用範囲の拡大（非防爆機器の使用範囲の拡大）」に向けたガイドラインが国により策定されました。

また、千葉県と国立がん研究センター東病院、千葉大学、公益財団法人千葉県産業振興センターが連携し、医師のニーズと中小企業の技術、ノウハウやアイデアを結びつける場を提供するプロジェクトや、試作品開発を支援するプログラムを実施しました。

さらに、県内への企業誘致を推進するため、国内外企業へのアンケートや電話相談等を踏まえ、1,132件の企業訪問や海外企業への誘致活動、知事によるトップセールスなどを実施し、67件の企業立地につながりました。



知事によるトップセールス



Ⅲ-2-②：中小企業・小規模事業者の経営基盤強化

厳しい経営環境にある中小企業や、起業者を積極的に支援するため、チャレンジ企業支援センター（(公財)千葉県産業振興センター内）では、経営や金融、起業などに関する3,489件の窓口相談、51社への専門家派遣を実施し、経営課題の解決や経営の向上をワンストップで支援しました。

また、チャレンジ企業支援センター内に、新たに事業承継プロジェクトマネージャーを配置し、事業継承に関する中小企業への相談をより手厚くしました。



Facebook による情報発信

Ⅲ-2-③：地域の創意工夫による経済活性化の取組の促進

農林漁業者と中小企業者が連携して商品開発等を行う「農商工連携」を推進するため、「ちば農商工連携事業支援基金」において11件に助成し、地域特産の梨や米粉等を活用した新商品の開発等に貢献しました。

また、チャレンジ企業支援センターで創業に関して430件の窓口相談を受けたほか、県内4地域で「ちば起業家交流会」（延べ652名参加）、幕張メッセで「起業家応援イベント」（延べ2,200名参加）を開催し、起業応援の機運を醸成しました。



鎌ヶ谷市産梨を活用したサイダー

Ⅲ-3-①：女性の活躍推進

民間企業等との連携による男女共同参画推進連携会議において、「男性の仕事・子育て両立支援」をテーマにシンポジウムを開催するなど、合計6回の研修会等を実施し、延べ69団体、459人の参加がありました。

また、男女共同参画の視点をもって活躍する女性人材を養成することを目的に、起業・就労・就農等をテーマに、女性リーダー養成講座を合計9回実施し、延べ211人が参加しました。



シンポジウムの様子



Ⅲ-3-②：雇用対策の推進と産業人材の育成

「ジョブカフェちば」では、併設のハローワークと連携して、若年求職者を対象とする個別相談や就職活動に役立つ各種セミナー、企業説明会、職業紹介などを実施した結果、当該施設を通じて就職した正規雇用の割合は44.6%となりました。

また、県立高等技術専門校 6 校において、21 科の職業訓練を行い、就職率は 89.7%となりました。さらに、離職者の再就職を支援するため、民間教育訓練機関を活用した職業訓練を 202 コース実施し、3,169 人の訓練生が受講し、就職率は 75.3%となりました。



就労支援（ジョブカフェちば）

Ⅲ-4-①：産地の戦略的な競争力強化と高収益型農林水産業への転換

シンガポールにおける知事のトップセールス、千葉県フェア、商談会の開催や海外バイヤーの招へいなどにより、国内外の販路拡大を図るとともに、農林漁業者等の 6 次産業化の取組を支援するなど、戦略的な販売促進を行いました。

また、効率的かつ安定的な農業経営が営めるよう担い手への農地集積を促進するとともに、新規就業促進や就業後の定着、経営感覚の育成などを目的とした各種研修・交流会等を実施しました。



シンガポールにおける知事のトップセールス

Ⅲ-4-②：緑豊かで活力ある農山漁村づくりの推進

「千葉県 6 次産業化サポートセンター」を設置・運営し、農林漁業者等からの相談対応等を通じ、農林漁業者等が主体的に取り組む新商品の開発や、販路の開拓について支援を行いました。

また、野生鳥獣による農作物等の被害対策のため、捕獲事業や防護柵設置の助成を行うとともに、調査・研究や捕獲の担い手の養成・確保など関係機関・団体等と連携し取り組みました。



稲刈り体験



Ⅲ-5-①：交流基盤の強化

圏央道、外環道、東関東自動車道館山線の4車線化、北千葉道路など高規格幹線道路等の整備を促進しました。外環道は、三郷南 IC から高谷 JCT までの区間が平成 30 年 6 月 2 日に、千葉北道路の東側区間は、国施行区間である成田市船形から押畑までの区間が平成 31 年 3 月 3 日に開通しました。東関東自動車道館山線は、君津 IC から富津中央 IC 間が平成 31 年 3 月 31 日に4車線運用を開始しました。

また、港湾を取り巻く環境の変化に対応するため、千葉港港湾計画の改訂を行いました。



北千葉道路（成田市船形～押畑間）開通

Ⅲ-5-②：成田空港の機能拡充と空港を活用した県経済の活性化

国、県、地元市町や空港会社の四者で決定した成田空港周辺地域の地域づくりに関する「基本プラン」に基づき、成田空港の更なる機能強化に合わせた地域振興に関する検討を進めるとともに、成田財特法の改正に向けた調整を行い、法改正が行われました。

また、成田空港を活用した千葉県経済の活性化に向け、経済団体・企業・自治体などで構成する「成田空港活用協議会」が実施する航空／空港関連企業との商談会などを支援しました。

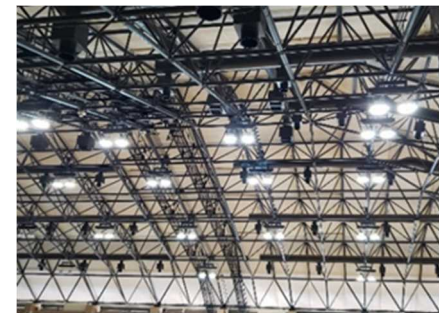


成田国際空港

Ⅲ-5-③：社会資本の適正な維持管理

県が保有する道路、公園、下水道、住宅施設等について、公共施設分野ごとの整備方針を定めた長寿命化計画に基づき点検を実施し、点検結果を踏まえた長寿命化対策工事を実施しました。

また、県内の水道用水供給事業者・水道事業者の基幹管路（導水管・送水管・配水本管）において、管路の耐震化を促進する交付金を 13 事業に対し交付し、県全体の管路の耐震化の向上を図りました。



体育館照明の LED 化（館山運動公園）

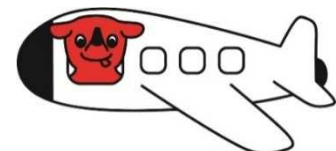
Ⅲ-5-④：人と環境にやさしい住まい・まちづくりの推進

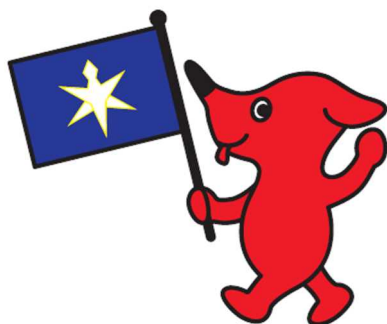
公共施設や商業施設等のバリアフリー情報を紹介する「ちばバリアフリーマップ」に新たな施設情報を掲載しました。

また、良好な景観形成を推進するため、景観セミナー3回、市町村連絡会議2回などを開催し、県民や事業者の景観づくりへの参加促進や市町村への情報提供等に取り組みました。



景観セミナーの様子





千葉県 総合企画部 政策企画課 政策室
〒260-8667 千葉市中央区市場町1番1号
電話:043-223-2440 FAX:043-225-4467
県 HP:<https://www.pref.chiba.lg.jp>